

会議名	平成 29 年第 3 回国民健康保険運営協議会 会議結果(概要)
開催日時	平成 29 年 12 月 18 日(月) 午後 7 時 30 分～午後 9 時 20 分
開催場所	愛知川庁舎 第1委員会室
出席者	被保険者代表 石沼林三郎委員、國領靖浩委員、中野芙奈美委員 保険医・薬剤師代表 森野尚子委員、上林俊明委員 公益代表 小杉格委員、楠神征子委員、宇野久七郎委員
欠席者	保険医・薬剤師代表 中村公久委員
事務局	住民福祉部部長 岡部得晴 住民課課長 廣瀬猛、係長 小泉周子、主査 久保川美晴 主事 北村弘樹、主事 松岡 賢司 税務課課長 北村章夫、係長 成清かおり、主査 伊藤圭佑 健康推進課課長 橋爪聖子、保健師 小林統子、保健師 澤村歩美
傍聴者	0人
議 題	第2期愛荘町国民健康保険保健事業計画(データヘルス計画)(案)について 第3期愛荘町国民健康保険特定健康診査等実施計画(案)について 平成30年度における国民健康保険税の考え方について (国保新制度における納付金・保険料の試算について)
審議内容	別紙のとおり
問い合わせ先	住民課 担当 小泉 連絡先 0749-42-7692

(開会)

1) 会長あいさつ

みなさんこんばんは。過日、新しい国民健康保険制度にあたっての全国の会議がありました。それに参加しますとうまく新しい制度に移行できるようにと、決議されました。愛荘町の健全な国保の運営を考えていきたいと思っています。本日だけでなくこれからの会議においてもご意見を沢山出していただきたいと思います。出した意見については町が考えて、お互いに高めあうような会議にしたいと思っています。本日はどうぞよろしく申し上げます。

2) 町長あいさつ

皆さん、こんばんは。平成29年度 第3回目の国民健康保険運営協議会を開催させていただきましたところ、委員のみなさまにおかれましては、夜分お疲れのところ、また、ご多忙の中、ご出席いただき誠にありがとうございます。

日ごろは、町行政各般にわたりまして、格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申しあげます。

さて、滋賀県においては、8月31日に滋賀県国民健康保険運営方針を策定され、平成30年度からの国民健康保険 都道府県化に向けての検討が大詰めを迎えているところであります。

平成30年度予算編成に必要な納付金の算定につきましては、国からの確定係数の提示が、平成29年12月28日になる見込みであり、県から納付金の額の確定が示されるのは1月末となる予定です。

本日の議題としましては、第2期愛荘町国民健康保険 事業実施計画（データヘルス計画）（案）について、第3期愛荘町国民健康保険 特定健康診査等実施計画（案）について、平成30年度における国民健康保険税の考え方についてを説明させていただきますので、ご審議のほどよろしく申し上げます。

3) 議事録署名委員の選出について

議長（会長）の指名により、楠神委員、石沼委員に決定

4) 第2期愛荘町国民健康保険保健事業計画（データヘルス計画（案）について

事務局説明の後、質疑・応答

- ・(委員) 県平均よりも愛荘町はガンの死亡率が低いですが心筋梗塞、脳梗塞は多い。愛荘町はガンが少ないと考えて良いのか。
- ・(事務局) 愛荘町に限らずガンの死亡率が高い。厳密にこれという原因はないが、メタボが多いと感じるので、関連が多いのではないかと。
- ・(委員) 脳・心疾患で死亡するので、ガンを発症する前に死亡するのかもしれない。保健指導では特に何を伝えているのか。
- ・(事務局) 肥満について指導している。
- ・(委員) 減塩か痩せることが優先か。長野県は県を通じて減塩指導をしている。肥満の指導も大切だが、減塩指導も大切である。
- ・(事務局) 栄養指導ではイモ類の摂取が多いと感じる。沢山作り、沢山食べる。栄養指導では、塩分量、食べる量、両方からアプローチしている。
- ・(事務局) かまどまつりでも健康推進員さんが塩分濃度別のみそ汁の試飲を行ったり、減塩メニューにも取り組んでいる。
- ・(委員) 愛荘町は脳・心疾患が多い。血圧は塩分だけではないと本に載っていたが、塩分を制限するだけで血圧は下がる。肥満の解消も言えるが、愛荘町はここに力を入れていきますと言う方が結果としてより出てくる。
- ・(委員) 減塩をしましょうではなく、もっと踏み込んで、このようにしたら塩分を減らすことができますと提案することが必要である。
- ・(事務局) 栄養相談時にも野菜から食べましょう、炭水化物+炭水化物はやめましょう等提案している。本人が動ける目標を立てることを心がけている。
- ・(委員) 地域を巻き込んで取り組みを行うことも大切である。
- ・(委員) 愛荘町は狭心症が国・県平均よりも高い。どのように分析しているのか。
- ・(事務局) レセプトの情報で分析している。
- ・(委員) 必ずしも生活習慣病からくるものではなく、遺伝もあると思う。重症になると医療費がかかる。指導しても何故そんなに増えるのか。
- ・(委員) 愛荘町は脳に関してはどうか。

- ・(事務局) 脳梗塞も多い。
- ・(委員) 近くに専門的な病院があるので、すぐに調べられる。
- ・(委員) 糖尿病は健診と診察での基準数値に違いがあるが、レセプトは糖尿病の疑いも含めているのか。
- ・(事務局) 疑いはいれない。
- ・(委員) 2回引かかるものなら、糖尿病とすると基準は決められている。

5) 第3期愛荘町国民健康保険特定健康診査等実施計画(案)について

事務局説明の後、質疑・応答

- ・(委員) アンケート結果で特定健診を知らなかった人が30.1%もいるが、広報の仕方はどうなのか。
- ・(事務局) 特定健診という言葉が馴染まないのではないかと。町の健診というところからわかってもらえる。
- ・(委員) 期間が決まっているが、トータルで何日あるか。
- ・(事務局) 10日間ある。
- ・(委員) 両保健センターのみだと自転車の人がいけないことがある。集落でやることは難しいのか。
- ・(事務局) 集落は回れないため、個別健診を受けてほしい。
- ・(委員) アンケートで「知らない」と答えた人が減れば、受診率も上がるのではないかと。
- ・(事務局) 治療中の人の情報提供や40代に受けてもらえるようにしていきたい。
- ・(委員) データから見ても高齢者が多いとうかがえる。若い年代の人に合った時間設定を聞いたらどうか。
- ・(事務局) 個別健診等をうまく使ってほしい。
- ・(委員) 健診受診率の目標にはあと5%足りない。保健指導率は良いが、受診率をどうして上げるかが問題である。データヘルス計画の結果から項目を考えるのはどうか。
- ・(事務局) 国で基準が決まっているので、町で考えることはできない。

7) 平成30年度における国民健康保険税の考え方について

- ・(委員) 平成30年度は、一般会計からの繰り入れは850万円くらいか。
- ・(事務局) 保険税で足りない分は、一般会計からの繰り入れと考えています。
- ・(委員) 平成28年度の一般会計からの繰り入れはしているのか。
- ・(事務局) 平成28年度赤字補填はしていません。
- ・(委員) 残った基金はいくらか。
- ・(事務局) 約3,800万円ある。
- ・(委員) 残った基金はどうするのか。
- ・(事務局) 保険税の上昇軽減に使う予定である。
- ・(委員) 今まで災害時に使うので基金を0円にしてはいけないと聞いていたが大丈夫なのか。
- ・(事務局) 災害時は県が対応する。
- ・(委員) 平成36年度以降保険料が統一される。統一化までに基金を取り崩していかなければならない。
- ・(委員) 何かあった時は県で責任を持つのであれば、基金は取り崩していい。
- ・(事務局) 県もこれからであるので模索している状態である。
- ・(委員) 県や全体的な動きの中で基金のことは考えるので良い。それまでは一般会計からの繰り入れもやむを得ない。
- ・(事務局) 平成27年度に3年間の予定で決定した税率であり、来年度が3年目である。平成30年度におおよそ他の市町の様子が見えてくるので、今回は現行の税率を維持したい。

8) 次回開催について

- 平成30年2月上旬開催予定

9) 閉会